

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説2000日  
県政の革命児!

県議会だより

後藤かつみ

vol.30

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所  
住所 高崎市八幡町800-24  
TEL&FAX 027-343-1393  
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com  
http://www.ccrgoto.com/



リベラル群馬が新年度予算に向けた提言書を提出。

の通り借金を大幅に増やし、更には「貯金」にあたる財政調整等基金を全額取り崩すという、まさに「貯金をはたき、借金を重ねて」でも大盤振る舞いしようという姿勢です。リベラル群馬は、代表質問の中で、「財政健全化の道とは逆行している」と釘を刺したところでした。

リベラル群馬の「是々非々」の視点から見た場合、国の経済対策の一时的な財源を使っているとはいえ、若者の雇用政策や働く女性の両立支援策に力を入れるなど、評価できる側面もあります。が、総じて言えば問題の多い内容と言わざるを得ません。知事が力を入れる「7つの交通軸構想(県内隅々に幹線道路を整備)」「コンベンション施設建設」など、新規建設事業の計画が目白押し一方で、

新規建設事業ラッシュの陰で...

リベラル群馬が訴える「既存施設を大切に活用する政策」はおざなりとなっています。別表のとおり、大澤知事就任以前に建設された施設に対する運営経費は極限まで削減され、まさに「作ってしまったらお構いなし」という状況となっています。本会議においても、特に削減の著しい図書館の資料費について触れ、「県立としての専門性が発揮できない」と指摘しました。

新規建設事業が目白押しな一方で、既存施設の運営予算は軒並み大幅減額

- ◆図書館の資料費 7,700万円(H19) → 2,670万円(H27)
- ◆「ぐんま天文台」の運営・研究費 2億円(H19) → 9,000万円(H27)
- ◆「ぐんま昆虫の森」の運営費 3億円(H19) → 1億2千万円(H27)

「積極型」の陰で、リベラル群馬の提言する地場産業、若者、高齢者への施策は...

- 円安による原材料等の高騰に苦しむ企業に対する県独自の対策 → 無し
- 3歳未満児保育料軽減事業(H26:4億3千万円) → 廃止
- 高齢者に対応した福祉や公共交通施策 → 新規・拡充施策は無し

「大盤振る舞い」予算にクギを刺す

H27年度予算は、単独公共事業費5.5%増などの「積極型」予算。その財源のために通常債(県の責任で返済する建設債)を1で返済する建設債)を15.8%増額(4年連続増。H23年度と比べ2倍弱の伸び)するなど「大盤振る舞い」が際立つ内容となっています。来年度の県税収入は、230億円程度の増収が見込まれますが、その大きな要因は「消費増税」によるものです。県民の増税負担をお願いしたお陰により歳入面で余裕が生まれるのですから、本来であれば借金を減らすなど財政健全化のために財源を回すべきです。しかし、大澤知事は、「元気飛躍型予算」と景気の良い掛け声のもと、逆に前述

再び放漫財政へ?

- 予算総額 7159億円(5%増)
- 県税収入 2360億円(11%増) ⇒消費増税の影響が大
- 通常債(※県の責任で返済する建設債)発行額 476億円(15.8%増)
- 公債費(借金返済額) 1063億円(2.5%増) ⇒税収の半分は借金返済に回っている。
- 単独公共事業費 616億円(4.5%増)
- 財政調整的基金(県の貯金)取り崩し 168億円(全額)

※消費増税により一息つき、財政立て直しができる環境にある中、逆に貯金を取り崩し、借金を増やしてまで使おうという姿勢と言える。

「積極型」の陰で...

知事が「元気飛躍型」と意気込み、公共事業を中心とした「積極型」の景気対策が目白押しに並ぶ一方で、円安によるコスト高に苦しむ地場企業への対策など、「厳しい現実」を直視した県独自の施策については極めて寂しいと言わざるを得ません(別表)。従来型の公共事業頼みの経済対策の限界が指摘

され、また、アベノミクスの「恩恵」と「副作用」を受ける者の格差が深刻となっている状況の中で、リベラル群馬は、現在の「空から力ネを降らせる」ような施策ではなく、地場企業や若者・高齢者の「生活」に丁寧に光を当てる「ボトムアップ型」の経済政策を対立軸とし、引き続き提言を続けていく所存です。

放漫財政の懸念再び〜H27年度予算〜